

都市再生整備計画(第6回変更)

くろい えきしゅうへん ちく
黒井駅周辺地区

にいがたけん じょうえつし
新潟県 上越市

平成23年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|------|---------------------|-----|---------|----|--------|
| 都道府県名 | 新潟県 | 市町村名 | 上越市 | 地区名 | 黒井駅周辺地区 | 面積 | 669 ha |
| 計画期間 | 平成 18 年度 ~ 平成 22 年度 | 交付期間 | 平成 18 年度 ~ 平成 22 年度 | | | | |

目標

大目標：黒井駅を拠点とした駅周辺の一体的整備による交通利便性の向上と暮らしやすいまちの創造

- 目標1: 黒井駅南口の開設及び自由通路の設置による地域の一体性の創出と駅への交通利便性の向上
- 目標2: 鉄道とバスとの連携による交通結節機能の強化
- 目標3: 民間開発の誘導による未利用地の有効利用と賑わいの創出
- 目標4: 住宅団地内の浸水被害解消による安全安心のまちづくりの向上

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- (地区全体)
- 黒井駅周辺地区は、上越市頸城区の西部にあり都市計画区域として位置付けられ、特に近年は住宅開発が盛んで都市化の進展が顕著な地域である。また、駅周辺には直江津臨海工業地帯の一部である大規模化学工場をはじめ、県営南部産業団地や西福島工業団地など直江津港や北陸自動車道、国道8号線を背景とした大規模な工業地域が形成されている。
- 県営南部産業団地や西福島工業団地の南側は、住宅団地の分譲を進めてきており、職住の共存を目指した環境整備が求められている地域である。
- 住宅団地と市街地を結ぶ幹線となっている市道頸城線は、産業団地等への企業の進出とあまって計画を超える交通量となっているため、路面の破損が目立っている。
- 一方、団地化されていない土地については、住宅や農地として有効に活用されていない土地も多く、地域活性化のためにも未利用地の解消が課題となっている。
- (交通)
- 黒井駅周辺地区は、信越本線により南北に分断されており、駅舎が線路の北側にあることから、駅利用者並びに南北の連絡交通は駅構内直江津寄りにある西福島踏切を渡るしかないのが現状である。西福島踏切は、幅員9.1m、延長16.0mで歩・車道の区分がない。JR新潟支社の実態調査(平成16年9月28日調査)によると、この踏切を通過する列車本数は1日148本(旅客列車40本/日、貨物列車108本/日(回送、入換えを含む))と多くなっている。踏切遮断回数は、午前7時~8時、午後5時~6時が最も多く、この間の踏切遮断時間は、それぞれ16分18秒、13分17秒となっている。また、駅周辺には事業所や運送会社があり比較的交通量も多く、併せて道路幅も狭く、かつ歩道がない状況である。
- 線路北側に居住している小・中学生は、西福島踏切を渡って通学している。同様に線路南側の学生は踏切を渡って北側に回り、黒井駅から市内外の高校に通学している。いずれも、踏切横断を余儀なくされ、かつ比較的交通量の多い狭隘な道路を通行しなければならないのが現状である。
- 黒井駅の既存施設では、ホームまで跨線橋を渡っていかなければ利用できない状況であり、エレベーターもないことから公共交通施設のバリアフリー化を積極的に推進する必要がある。
- 駅利用者の多くが通学の学生であり、駅までの交通手段として自転車や原付自転車を利用している。現在、駅舎北側の駐輪スペースが利用されているが、区画がされていないため乱雑に置かれているだけでなく、放置自転車も目立っている。
- 当該地区には路線バスが運行されているが、黒井駅には経由していない。また、モータリゼーションの進行などにより利用者が年々減少してきており、減便や廃止が懸念されている。
- 黒井駅周辺の都市基盤、生活基盤の整備については、まちのイメージ形成における重要拠点として必要不可欠であり、旧頸城村第4次総合計画(前期基本計画)の公共交通主要施策においても、鉄道の利便性確保という観点から駅周辺整備と南口開設を根幹事業と位置付けてきた。
- また、当該事業は合併に伴う新市建設計画の新市の施策「都市基盤・生活基盤の整備」に位置付け、駅利便性向上のため黒井駅南口の開設や南北自由通路の設置といった駅南地域整備を喫緊の課題としている。
- 平成17年度は黒井駅周辺整備計画を策定し、平成17年12月20日からパブリックコメント(市民意見提出制度)を実施し、整備する施設等について広く市民の意見を求めている。

課題

- 鉄道によって分断された地域の一体化を図り、安全な歩行空間を確保する必要がある。
- 公共交通機関を利用した移動の円滑化を図るため、駅の利便性向上とバリアフリー化が課題である。
- バス及び鉄道の利用促進と、公共交通機関の有機的な連携等による交通結節点としての機能を強化する必要がある。
- 生活幹線道路である市道頸城線の早期改良が課題である。
- 駅周辺においては、未利用地が目立ってきているため、特に駅南地区への民間開発の誘導などによる土地の利活用を図ることが課題となっている。
- 住宅団地内への大雨や豪雨による浸水が長時間に亘り発生しており、早期の改修が必要である。

将来ビジョン(中長期)

- 安全・安心・快適な生活を支えるまちづくり
- 旧頸城村第4次総合計画(前期基本計画)の公共交通主要施策において、鉄道の利便性確保という観点から駅周辺整備と南口開設を地域発展の基盤として位置付け、高齢者・障害者など交通弱者の利用に配慮したバリアフリー化の促進など、誰もが利用しやすい施設として整備を進める必要があるとしている。
- 旧上越地域広域行政組合で策定した「上越地域拠点都市地域整備基本計画」の基本構想では旧頸城村を社会基盤の整備に重点を置いた「職住近接型居住ゾーン」として位置付けており、さらに基本計画の「自然環境に配慮した質の高い、快適な住環境の整備」の面では主要プロジェクトとして位置付けている。
- 新市建設計画では、アクセス道路の整備や交通バリアフリー化の促進など、市民が地域内の多様な恵みを受用できるような、地域ネットワークを支える交通体系を整備することとしている。

目標を定量化する指標

| 指標 | 単位 | 定義 | 目標と指標及び目標値の関連性 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 |
|--------------------|-----|---|---|------|------|--------|------|
| | | | | | | | |
| 1 バス利用率 | % | バス利用状況における「週1回以上利用する」人の割合(地域交通アンケートによる) | 駅への交通利便性の向上や交通結節点としての機能強化の成果を導く。利用率の倍増を目指す。 | 7.5 | H15 | 15.0 | H22 |
| 2 黒井駅の乗降客 | 人/日 | 1日当たりの黒井駅の乗降客数(JRの調査による) | 駅への交通利便性の向上や交通結節点としての機能強化の成果を導く。1日当たりの乗降客数の5%程度の増加を目指す。 | 434 | H16 | 500 | H22 |
| 3 (仮)黒井駅南口駐輪場の年間利用 | 台/年 | (仮)黒井駅南口駐輪場の年間利用台数(駐輪場所管部署による集計) | 駐輪場整備により、駅の交通利便性の向上と放置自転車の減少が期待される。 | - | H17 | 28,000 | H22 |
| 4 地域住民の満足度 | % | 生活環境全般の満足度(住民意識調査による) | 暮らしやすいまちとしての熟度を導く。満足度90%を目指す。 | 65.4 | H11 | 90.0 | H22 |
| 5 地域住民の満足度 | % | 安全に生活する環境としての満足度(住民意向調査による) | 安全安心のまちづくりの成果を導く。満足度90%を目指す。 | 58.9 | H11 | 90.0 | H22 |

都市再生整備計画の整備方針等

| 計画区域の整備方針 | 方針に合致する主要な事業 |
|---|--|
| 整備方針1(駅周辺の一体的整備による交通利便性の向上) ・現在の北口広場改修に加えてバス乗り入れ可能な南口広場を新設し、併せて駐輪場の整備を行う。 ・鉄道による地域の分断を解消するため、黒井駅の北口広場と新設の南口広場の整備に併せ、両広場を結ぶ自由通路(高架橋とし、全長52.5m・幅員3.0m)を整備する。 ・生活幹線道路である市道頸城線の改良を行う。 | 黒井駅北口広場(基幹事業) 黒井駅南口広場(基幹事業) 黒井駅北口駐輪場(基幹事業) 黒井駅南口駐輪場(基幹事業) 市道頸城線(基幹事業) 黒井駅自由通路(基幹事業) |
| 整備方針2(交通結節点としての機能強化) ・整備方針1により整備する施設等を有効に活用するとともに、電車・バスなど公共交通機関相互の連携と、交通結節点としての機能強化を図るため、黒井駅を発着点とするコミュニティバスの運行を試行する。 ・公共交通機関の利用促進と併せ、市街地の渋滞緩和や環境負荷軽減のための社会実験を実施するため、駐車場の整備を行う。 | コミュニティバス運行試行事業(提案事業) 黒井駅北口駐車場(基幹事業) 黒井駅南口駐車場(基幹事業) |
| 整備方針3(民間開発の誘導による賑わいの創出) ・南口広場周辺の未利用地の民間開発を誘導するため、南口広場までの間に下水道の本管を整備する。 | 黒井処理地区下水道本管延長整備事業(関連事業) |
| 整備方針4(住宅団地内の浸水被害解消による安全安心のまちづくりの向上) ・住宅団地内浸水対策を解消するため、保倉川への放流施設として排水ポンプの増設、道路側溝の布設替え及び切り替えをする。 | 下吉排水ポンプ(基幹事業) 市道上吉1号線(基幹事業) |

その他

市民への公表

交付期間内において、事業の進捗状況については、随時、市広報及びホームページを通じて情報提供するとともに、コミュニティバスの運行をPRし、利用促進を図る。

事業終了後の継続的なまちづくり活動

頸城区には、住民組織として頸城区コミュニティ協議会が結成され、計画区域のある南川地区には、南川地区コミュニティ協議会がある。コミュニティ協議会では、環境・福祉・安全など地域コミュニティが直面している課題解決に向け、5つの部会がそれぞれ活動している。平成17年度は、行政と連携して手作りの夏祭りである「頸城の祭典」、敬老会、生涯学習フェスティバルなどを行っている。

事業終了後は、こうした住民組織、関係団体と連携しながら、暮らしやすい住環境づくりを進めるとともに、駅前の広場を活用したイベントの実施など、住民が主体となった事業の展開を進めていく。

【その他の住民組織】

・NPO法人くびき菜夢ネット

体験交流施設「くびき食彩工房」の指定管理者として、押し寿司や豆腐作りなどの体験事業、学校の総合学習支援など、地域の農産物、農産加工品を通じて地域食文化の継承、食農教育に関する事業を行っている。

・NPO法人健康サポートはぁと&ハート

高齢者が寝たきりにならないために、健康増進の三要素のうちの運動と栄養部門を担っている。活動としては、水中運動教室の運営(週6回3コース)、お通者クラブへの栄養バランス弁当の提供、会員に対する資質向上のための勉強会などを行っている。

・NPO法人コートピアくびきスポーツクラブ

幼児から小・中学生、成人を対象にした20のスポーツ教室を開催しているほか、加盟16団体がそれぞれ独自の活動も行っている。また、体育祭をリニューアルした「くびきチャレンジスポーツフェスティバル」を主管している。

交付期間中の計画の管理について

交付期間中においては、当該計画及び関連計画等に基づく各種事業との連携・調整を円滑に進め、着実な成果を上げていくために、頸城区総合事務所総務・地域振興グループが総合的な調整を行う。

都市再生整備計画の区域

| | | | |
|------------------------|-----------|---------------|---|
| <p>黒井駅周辺地区(新潟県上越市)</p> | <p>面積</p> | <p>669 ha</p> | <p>区域 大字黒井の一部、大字佐内の一部、大字春日新田の一部、頸城区西福島の一部分、頸城区下吉の一部分、頸城区上吉の一部分、頸城区松本の一部、頸城区下三分の一の一部分、頸城区上三分の一の一部分、頸城区市村、頸城区美しが丘、頸城区望ヶ丘、頸城区下神原、頸城区上神原、頸城区北福崎、頸城区百間町の一部、頸城区青野の一部、頸城区北四ツ屋の一部、頸城区浮島の一部、大字下五貫野の一部分、大字上五貫野の一部分、大字上名柄の一部分、大字下吉野の一部分、大字上吉野の一部分</p> |
|------------------------|-----------|---------------|---|

